

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年9月29日(火)号

## ◇ 校歴を紐解く② 【常磐東小学校 校歌】

資料によれば、本校の校歌は、昭和37年の創立60周年を機に動き出し、昭和38年1月に制定(発表)、周年から3年越しの昭和39年3月に60周年記念式典の目玉として安戸町の旧校舎正面玄関横に石碑が建立された。

下の資料写真は当時のもの。現在も4年生から6年生が担う鼓笛隊は、昭和37年に編成されたとある。よく見ると、児童の服装は制服に通称「トレパン」、黄色の安全帽子である。昭和40年代に入ると私服に移行するが、昭和30年代末までは本校は制服があり、この数年前までは男子も学帽をかぶっていた記録が残る。

演奏楽器に「アコーディオン」と「ベルリラ(縦型の鉄琴)」が確認できる。編成隊の最大人数は「縦笛」である。時代を経て、「アコーディオン」は「鍵盤ハーモニカ(通称:ピアノカ)」、さらには「ハーモニー キーボード」へと変わっていくのである。

校歌碑建立時の作業時は滑車が見える。重機は貴重な時代だったことがうかがえる。校歌碑の材質は御影石。歌詞等の彫刻文字は、当時は珍しい文字彩色が施されており、白色の輝きがまぶしい。校長をはじめとする関係者の校歌に対する思い入れの強さがうかがい取れる。

◆ 創立100周年記念誌【緑陰(平成13年11月発行)】より



◀ 鼓笛隊編成(昭和37年)

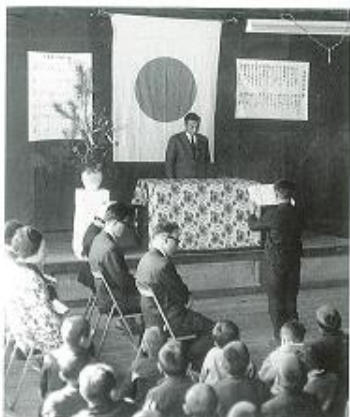
### 創立60周年 記念式典挙行

昭和39年3月



原田 市郎 校長

昭和36年4月~昭和40年3月



◀ 校歌誕生(昭和38年1月28日)



▲ 歌碑建立(昭和39年)



◆現在の校歌碑 ※児童昇降口前のピロティ（体育館前）



常磐東小学校の歌(校歌)

作詞:中林きみを  
作曲:馬飼野 昇



※塗装前の黒文字 VER

自分が目にした文字色は、記念誌に残る「白色」とは異なる「黒色」の文字。後に分かったことであるが、経年により色が薄くなった文字を、平成23年に三浦倫夫（第27代校長）先生が分かりやすいようにと黒で彩色されている。創立120年を節目とし、今回、建立時の白の文字色で改めて彩色を施した。

手を入れて改めて分かったことがいくつかある。

①石表面の状態

- ・碑の建立から半世紀以上になるが、洗浄すると鏡面が姿を現した。粒子の細かい良質の御影石を用い、高い技量を備えた職人が丁寧に仕上げたことが分かる。腕もよいが、素材がいいから時を経ても崩れないといえる。

②2番の歌詞

- ・「腕くむかげさ<sup>へ</sup> かがやいて」旧送り仮名が使われている。体育館に掲示されている書家 鈴木紫龍 先生の手書も同様であった。今後であるが、原書に敬意を払いつつも、子供たちが日常で使用する「腕くむかげさ<sup>え</sup>」で対応していくことにする。

③歌詞の上部に位置する「校章」

- ・反転させて縁取りを付け、「東」を引き立たせる工夫が施してある。立体感が生まれ、格式を高めている。

④最後に文字。

- ・のびやかで丸みがあり、実にいい文字である。行書のよさを生かした流れがある。この文字をよく石に刻んだものだと、職人の腕に感服である。

少しずつ手を加えてきた環境整備であるが、10月はいよいよ仕上げとなる。体育館につながる渡り廊下の屋根は、校務員の山田さんが再塗装に向けて準備中である。塗装のはがれかけたクリーム色の屋根が何色に変わるか期待してほしい。そして、最終仕上げは校門の再塗装。緑に囲まれた中にそびえる白亜の校舎の白亜の新生正門。イメージは、膨らむばかり。「山鳩群れ飛ぶ 風の中」